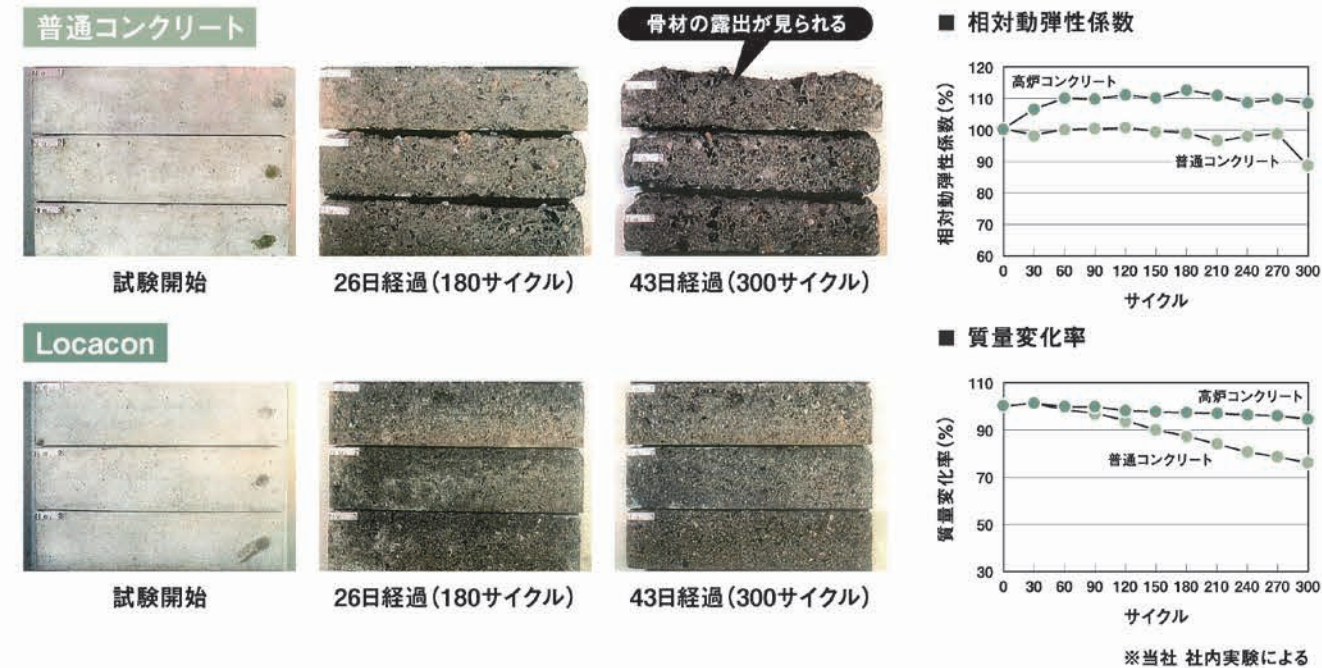


Locacon®で 高耐久な コンクリート製品を実現

高炉スラグ微粉末を配合したコンクリート構造物は、化学抵抗性、水密性、長期強度が増大するなど、優れた耐久性を持つことが知られています。更に、耐凍害性が確認されており、寒冷地での使用に最適です。

凍結融解試験結果※ JIS A 1148 (ASTM C 666) に準拠



再生可能エネルギーを使用したプレキャストコンクリート工場で製造

2023年 小布施工場・伊那工場の屋根に太陽光発電システムを導入し、同年4月より発電を開始しております。
4月から7月までの4か月間で購入電力量を42%(対前年比)削減することが出来ました。

年間CO₂削減量
約150t-CO₂

※両工場における2023年実績



小布施工場



伊那工場

■ インフラセグメント本部	〒381-0001 長野県長野市赤沼柳橋2276-2	TEL.026-296-9003	FAX.026-295-3532
■ 資材営業課	〒381-0001 長野県長野市赤沼柳橋2276-2	TEL.026-262-1544	FAX.026-262-1545
■ 北信営業所	〒381-0001 長野県長野市赤沼柳橋2276-2	TEL.026-262-1544	FAX.026-262-1545
■ 東信営業所	〒386-0004 長野県上田市殿城 3726-1	TEL.0268-26-1722	FAX.0268-26-1070
■ 中信営業所	〒390-1131 長野県松本市今井6960-1	TEL.0263-88-9411	FAX.0263-88-9410
■ 南信営業所	〒399-4301 長野県上伊那郡宮田村 5450-22	TEL.0265-85-3061	FAX.0265-85-4586
■ 関東営業所	〒362-0072 埼玉県上尾市中妻4-2-2 ウエルズ上尾	TEL.048-783-3346	FAX.048-783-3347



つくろう、今日を。

HP <https://infra.kk-takamisawa.co.jp/>
E-mail infrastructure-info@kk-takamisawa.co.jp



この印刷物は大豆油にかわり米ぬか油を使用したライスインキで印刷しています。





高見澤は、
美しい信州の自然を後世に残すため
Locacon[®]の製造を通して
脱炭素社会実現を目指しています。

低炭素型コンクリート「Locacon」は、コンクリート中に使用するセメントを、製鉄所から排出される高炉スラグ微粉末に置き換え、セメント使用量を減らすことでCO₂排出量を大幅な削減を実現しました。「Locacon」のセメント置換率は国土交通省の指標である55%を大きく上回り、最大60%。「Locacon」は高い品質とCO₂の削減を叶えながら従来の価格でご提供いたします。

一般的なコンクリート二次製品

セメント	水	骨材
------	---	----

Locacon[®] 60%置換

セメント	高炉スラグ	水	骨材
------	-------	---	----

セメントを高炉スラグで置換し
セメント由来のCO₂を削減

Locacon[®]で
L型擁壁H1000を
100m施工すると…

約2,400kg
のCO₂を削減



※写真：L型擁壁H1000

「Locacon」でL型擁壁H1000を100m施工した場合、セメント置換されていない通常の二次製品と比べ、約2,400kgのCO₂を削減可能です。
これはマイカー通勤を2年間やめたCO₂削減効果に匹敵するなど、「Locacon」のCO₂削減効果が非常に大きいことが分かります。

日常の
取り組みと
比べると…



Locacon[®]の特徴

CO₂削減率 従来品と比べ

-58%

セメント由来のCO₂を
削減できます

高い品質を叶えます

高炉スラグ微粉末はセメントよりも粒度が小さいため、コンクリート内部が密実となります。
これにより化学抵抗性や耐凍結融解・塩害性が向上し、高耐久なプレキャストコンクリートを実現します。

多品目で対応可能

従来の流し込み製品(側溝や擁壁など)を全て「Locacon」で製造可能。

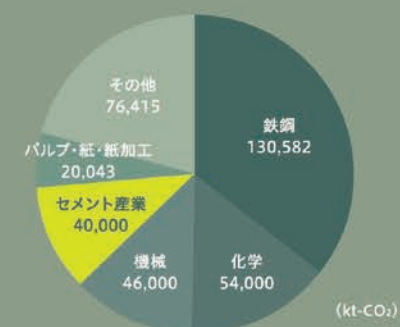
セメント産業と CO₂の排出

コンクリートの原材料であるセメントは、製造プロセスにおいて脱炭素反応が引き起こされるため、必然的にCO₂の排出が伴います。
2022年のセメント産業由来のCO₂排出量は約4,000万t。これは日本のCO₂総排出量の約4%、製造部門中第4位に該当します。

セメント製造過程のイメージ



日本の産業部門別CO₂排出量



※産業部門CO₂排出量にセメントプロセス由来のCO₂排出量を加算
※「日本温室効果ガスインベントリ報告書(2022年)」
日本の温室効果ガス排出量データ(1990～2020年度)
確認値のデータをもとに作成
(<https://www.nies.go.jp/gio/aboutghg/index.html>)

従来製品と比較して
-1,970kg
CO₂量削減

従来製品と比較して
-3,036kg
CO₂量削減

従来製品と比較して
-9,950kg
CO₂量削減